

授 業 科 目	基礎分野 論理的思考と文章表現	担 当 者 資格・役職等	大学助教 専門学校非常勤講師
開 講 時 期	1 年 前・後期	時 間 数	35 時間/35 時間
授業目的 及び概要	<p>目的：1. 論理的に考え、推論し、書く能力は学問の基礎であるとともにコミュニケーションの基盤となるため、言葉を正確に使用して自分の思考などを相手に明快に伝達しようとする態度を養う。</p> <p>2. 情報の定義と特徴、情報の検索と活用方法、情報の伝達とコミュニケーションを理解する。</p> <p>概要：1. 文章を正確に読解し、論理的に作成することを通して論理的な表現、心情を豊かに表現する力や、自分の思考を相手に明快に伝達する表現方法を学ぶ。</p> <p>2. 准看護師に必要な情報倫理を理解し、情報を取り扱う際の知識・態度を習得する</p> <p>3. 文書作成ソフトを用いた文書作成の技術を習得する。</p>		
回 数	時 間	授業内容	担当者
1	1・2	ガイダンス、自己紹介文の作成	非常勤講師 (国語)
2	3・4	自己紹介	
3	5・6	文章の書き方(文の骨格を意識する)	
4	7・8	〃 (一文の情報量を調整する)	
5	9・10	〃 (文と文とを接続する)	
6	11・12	〃 (単語を使い分ける)	
7	13・14	文章を書く前に(材料の集め方)	
8	15・16	文章の組み立て方	
9	17・18	レポートの書き方、レポート作成「身近な看護」	
10	19・20	ディスカッション(作成したレポートをもとに)	
11	21・22	仮レポートの書き方、レポート作成「看護に関すること」	
12	23・24	仮レポートの書き方、レポート作成「看護に関すること」	
13	25・26	文章作成(テスト)、レポート作成「講義を通して」	
1	27・28	情報とは・情報の検索と活用方法 情報の伝達とコミュニケーション	非常勤講師 (情報科学)
2	29・30	情報倫理とは 医療・看護領域における情報倫理(事例)	
3	31・32	文書作成の技術 1(Word の使用方法と文書作成)	
4	33・34	文書作成の技術 2(Word を使用しレポートを作成)	
5	35	終講試験(45 分)	
教科書	国語 『「看」字ドリル』 SENKOSHA 看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン		
参考文献	講師配布資料 , 『文章力の基本』 光文社 『文章力が身につく本』 高橋書店 『朝 5 分!読むだけで文章力がグッと上がる本』 カカ文庫 『看護学生のためのレポート書き方教室』 照林社		
成績評価の方法	課題レポート(原稿用紙) 漢字テスト・語彙表現テスト 出席状況 授業態度・課題(作成文書)または筆記試験		

授 業 科 目	基礎分野 地域の人々の暮らしと社会 I	担 当 者 資格・役職等	非常勤講師
開 講 時 期	1 年 前 期	時 間 数	20 時間/35 時間
授業目的 及び概要	<p>目的：社会で起きているさまざまな問題を学び、看護の対象である人に関わるために必要な、人権及び倫理を尊重する態度を学ぶ。地域で暮らす人々について知り、社会の仕組みを知るための基礎的能力を養う。</p> <p>概要：障害者や慢性疾患と共に生きている人々のライフストーリーを知り、ダイバーシティ&amp;インクルージョンについて考える。どんな社会にすれば、すべての人々が自分らしく生きられるか考える。</p>		
回数	時間	授 業 内 容	担当者
1	1・2	オリエンテーション、成績評価方法、 (講師)慢性疾患者のライフストーリー	非常勤講師 パワーポ イント
2	3・4	人間のバリエーションの豊かさ 障害の社会モデル	
3	5・6	慢性疾患児の幼少期・学童期の諸問題	
4	7・8	慢性疾患者の青年期の諸問題 移行期医療について	
5	9・10	小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を知る	
6	11・12	病気と共に生きる人が働くということ	
7	13・14	病気と共に生きながら、結婚、子育て、老後	
8	15・16	患者教育、患者協働の医療	
9	17・18	自己肯定・他人肯定の高め方、共生社会、助け合い	
10	19・20	「自分らしく生きる」とは	
教科書	なし		
参考文献	海老原宏美著「わたしが障害者じゃなくなる日」		
成績評価の方法	出席状況・ワーク・質問挙手		

授 業 科 目	基礎分野 地域の人々の暮らしと社会Ⅱ	担 当 者 資 格 ・ 役 職 等	英会話学校 講 師
開 講 時 期	1 年 前 期	時 間 数	15 時 間 / 35 時 間
授 業 目 的 及 び 概 要	<p>目的：外国語に親しみながら、保健医療活動の場で常用される外国語の表現力・読解力の基礎的な能力を養い異文化について興味を持ち対象を理解する知識を深める。</p> <p>概要：1) 日常英会話の基本 2) 看護に関する専門用語 3) 違う文化を尊重した関りを考える</p>		
回数	時間	授 業 内 容	担当者
1	1・2	あいさつ 自己紹介	非常勤講師
2	3・4	看護技術（患者さんの基本情報、日常介助）	
3	5・6	症状	
4	7・8	受付（初診、病歴、入院）	
5	9・10	指示表現・はげまし・薬の飲み方	
6	11・12	文化や宗教の違い	
7	13・14	会話の試験	
	15	筆記試験	
教科書	看護英会話入門 医学書院		
参考文献	随時資料プリント配布		
成績評価の方法	会話と筆記試験		

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師
	人体のしくみと働き I			
開講時期	1年 前期		時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要	<p>目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する。</p> <p>骨格系、筋系、呼吸器系</p> <p>概要:1.解剖学を学ぶ上で必要となる人体各部の名称や用語を把握する。 2.身体を支持し、運動できる仕組みの骨と筋肉の種類について学ぶ。 3.呼吸器の構造と働きを学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	第1章 総論	非常勤講師 (パワー ポイント)	
2	3・4	第2章 人体の構成 I 細胞:人体の細胞の形態、細胞の内臓構造、細胞分裂		
3	5・6	人体の構成 II 組織:上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織		
4	7・8	人体の構成 III 器官:中空器官、実質器官 IV 漿膜と漿膜腔		
5	9・10	第3章 人体の器官系 I 筋骨格系 II 循環器系 III 呼吸器系 IV 消化器系 V 泌尿器系 VI 生殖器系 VII 内分泌系 VIII 神経系 IX 感覚器系		
6	11・12	第4章 運動器系 I 骨・筋学総論 A.骨学総論 B.筋学総論		
7	13・14	II 体幹の骨と筋 A B C D E F G		
8	15・16	III 上肢の骨と筋 A B		
9	17・18	IV 下肢の骨と筋 A B		
10	19・20	V 頭部の骨と筋 A B VI 骨と軟骨の生理 A B C		
11	21・22	VII 興奮性組織の一般生理 A B C		
12	23・24	VIII 筋の生理 A B 付章 上肢と下肢の構成		
13	25・26	第7章 呼吸器系 I 呼吸器系の器官 A.鼻腔 ~ G.縦隔		
14	27・28	II 呼吸の生理 A.外呼吸と内呼吸 B.呼吸運動		
15	29・30	C.呼吸数、換気量、肺活量 D.血液ガス E.呼吸の調整		
16	31・32	F.異常な呼吸 G.酸素負債 H.発声		
17	33・34	まとめ 筆記試験		
18	35			
教科書	看護学入門 1 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社) 看護学入門 8 成人看護 I 呼吸器(メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学生プレトレーニング 人体のしくみ			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 医師
	人体のしくみと働きⅡ			
開講時期	1年 前期		時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要	<p>目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する。 血液系・生体防御系・循環系・神経系・感覚系</p> <p>概要:1)血液の組成と機能、循環器の構造とその働きについて学ぶ。 2)外敵を排除する免疫について学ぶ。 3)中枢神経を通して入力された情報がどのように末梢神経へ広がるかを学ぶ。 4)感覚器の構造とその働きについて学ぶ。</p>			
回数	時間	時間	担当者	
1	1・2	第5章 I 体液 A B C D	非常勤講師 パワーポイント	
2	3・4	II 血液 A.血液の細胞成分 B.血漿		
3	5・6	C.血液凝固 D.血液型 IIIリンパ		
4	7・8	第6章 I 心臓 A B C		
5	9・10	II 血管の種類と構造 III血液の循環		
6	11・12	III血液の循環 A B C D E F G		
7	13・14	IV胎児の循環		
8	15・16	V心臓の生理 A B C D E F		
9	17・18 19・20	VI循環の生理 A B C VII血圧 A B C D VIIIリンパ系とリンパ組織 A B C D まとめ 筆記試験		
1	21・22	第13章 I 神経細胞とその働き A B	非常勤講師 パワーポイント	
2	23・24	II 中枢神経系の構造と機能 A B		
3	25・26	C D E F		
4	27・28	III中枢神経系の活動 A B C		
5	29・30	IV末梢神経系の構造と機能 A B C		
6	31・32	第14章 I 感覚器の生理 III味覚器の構造と生理		
7	33・34 35	IV嗅覚器の構造と生理 VI平衡聴覚器の構造と生理 筆記試験		
教科書	看護学入門1 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学生プレトレーニング 人体のしくみ			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 医師
	人体のしくみと働きⅢ			
開講時期	1年 前期		時間数	35時間/105時間
授業目的 及び概要	<p>目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する</p> <p>消化・吸収系、内分泌系、腎尿路系、生殖系</p> <p>概要:1)消化器の構造とその働きについて学ぶ。 2)内分泌臓器の種類と働きについて学ぶ。 3)腎臓と排尿系の構造と尿生成と体液の調節について学ぶ。 4)生殖器の構造とその働きについて学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第8章 I 消化器系の器官 A.口腔~D.小腸 E.大腸~H.腹膜		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	II 消化器系の血液循環と神経		
3	5・6	III 消化と吸収の生理		
4	7・8	IV エネルギー代謝		
5	9・10	第9章 I 体温とは II 体熱の産生と放散 III 体温調節		
6	11・12	第12章 I 内分泌腺 A.甲状腺 B.上皮小体(副甲状腺) C.下垂体		
7	13・14	D.副腎(腎上腺) E.松果体 F.膵臓 G.性腺		
	15	II ホルモンの作用様式 筆記試験		
1	16・17	第10章 I 泌尿器系の器官 A.腎臓 B.尿路		非常勤講師
2	18・19	II 尿の生成と排泄の生理 A.尿 B.尿の生成		
3	20・21	C.腎クリアランス D.排尿		
4	22・23			
5	24・25	第11章 I 生殖器系の器官 A.男性生殖器 B.女性生殖器		
6	26・27	II 生殖の生理 A 卵巣と子宮の機能 B 乳汁分泌		
7	28・29	C 更年期と閉経		
8	30・31	復習		
9	32・33			
	34・35	まとめ・筆記試験		
教科書	看護学入門1 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学生プレトレーニング 人体のしくみ			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 管理栄養士 看護師
	栄養			
開講時期	1年 前期/後期		時間数	35時間/35時間
授業目的 及び概要	<p>目的:看護職として必要な栄養について学び食事療法の基礎知識を理解する。</p> <p>概要:1)栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝、エネルギーの摂取と消費について基礎知識を学ぶ。</p> <p>2)疾病・障害時の食事療法について基礎知識を学ぶ。</p> <p>3)食事療法の実際と看護師の役割について学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	序章 食生活と栄養の意義		非常勤講師
2	3・4	第1章 I 食生活について		
3	5・6	第2章 食事摂取基準		
4	7・8	第3章 栄養素とその代謝		
5	9・10	I たんぱく質		
6	11・12	II 脂質		
	13	III炭水化物(糖質と食物繊維) IVビタミン V水とミネラル		
		筆記試験		
1	14・15	第4章 病院食		非常勤講師 パワーポイント
2	16・17	第5章 食事療法 I 腎臓疾患 II 循環器疾患の食事療法		
3	18・19	III代謝疾患 IV消化器疾患の食事療法		
4	20・21	V悪性腫瘍 VI貧血の食事療法		
5	22・23	VIIアレルギー VIII高齢者 IX小児		
6	24・25	X妊婦・授乳婦 XIそのほかの疾患		
	26	XII手術と栄養 XIII特殊食品		
		第6章 特殊栄養法 筆記試験		
1	27・28	食事療法を受ける患者の看護 まとめ		専任教員
2	29・30	食事療法を受ける患者指導の実際 1		
3	31・32	食事療法を受ける患者指導の実際 2		
4	33.34 35	食事療法を受ける患者指導の実際 3 発表		
教科書		看護学入門 2 栄養(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	薬剤師 薬剤師 保健所講師
	薬理 I			
開講時期	1年 前期/後期 / 2年 後期		時間数	35時間/70時間
授業目的 及び概要	<p>目的:薬物についての基礎知識を身につけ、薬物の特徴と人体への影響、薬物の取り扱いを学ぶと共に、薬物による生理的变化と観察の重要性を理解する。</p> <p>概要:1)薬に関する基本的事項(薬の定義・法令・管理)、生体における薬の働き(作用・副作用部位)、生体内での薬の働き(吸収、分布、排泄)を理解する。 2)臨床で用いられている代表的な薬物による生理的变化と投与上の注意点を学び、観察の重要性を理解する。 3)麻薬の取り扱いと生体に及ぼす影響について学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第1編 薬理の基礎知識		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	第1章 薬に関する基礎知識		
3	5・6	第2章 医薬品の適正な使用に必要な基礎知識		
4	7・8	第12章 消毒薬		
5	9・10	第13章 抗悪性腫瘍薬		
	11	第14章 漢方薬 まとめ 筆記試験		
1	12・13	第3章 神経系・筋に作用する薬物		非常勤講師 パワーポイント
2	14・15	第4章 代謝系・内分泌系に作用する薬物		
3	16・17	第5章 炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物		
4	18・19	第6章 循環器系に作用する薬物		
5	20・21	第7章 血液・造血器官に作用する薬物		
6	22・23	第8章 呼吸器系に作用する薬物		
7	24・25	第9章 消化器系に作用する薬物		
8	26・27	第10章 泌尿・生殖器系に作用する薬物		
9	28・29	第11章 抗感染症薬		
10	30・31 32・33	復習 筆記試験		
1	34・35	麻薬・覚醒剤について		保健所講師
教科書		看護学入門 2 薬理(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	看護師 看護師
	薬理Ⅱ			看護師 看護師 看護師 看護師
開講時期	1年 前期/後期 / 2年 後期		時間数	35時間/70時間
授業目的 及び概要	<p>目的:薬物についての基礎知識を身につけ、薬物の特徴と人体への影響、薬物の取り扱いを学ぶと共に、薬物による生理的変化と観察の重要性を理解し看護に結びつけて考えることができる。</p> <p>概要:臨床で用いられている代表的な薬剤と薬物療法・看護のポイントについて学び、与薬に必要な知識を身につける。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第2編 薬部療法と看護		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	第1章 安全な与薬に必要な知識		
1	5・6	第2章 脳神経疾患		非常勤講師 パワーポイント
2	7・8	第3章 代謝・内分泌疾患 第6章 血液・造血器疾患		
1	9・10	第4章 膠原病・感染症		非常勤講師 パワーポイント
2	11・12	第9章 腎・泌尿器疾患 第11章 悪性腫瘍		
1	13・14	第5章 循環器疾患		非常勤講師 パワーポイント
2	15・16	第7章 呼吸器疾患 第8章 消化器疾患		
1	17・18	第10章 女性生殖器疾患		非常勤講師
1	19・20	第12章 感覚器疾患		専任教員
2	21・22	第3編 薬物をめぐる医療安全		
3	23・24	パフォーマンス課題Ⅰ:グループワーク(事例を基に安全・安楽な方法を考える)		
4	25・26	グループワーク		
5	27・28	発表		
6	29・30	パフォーマンス課題Ⅱ:グループワーク(事例を基に安全・安楽な方法で実施)		
7	31・32	グループワーク		
8	33・34	発表		
	35	まとめ		
教科書	看護学入門2 薬理(メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	授業出席状況、課題提出状況、パフォーマンス評価、課題到達度評価			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 医師
	疾病の成り立ち I			医師
開講時期	1年 前期		時間数	34時間/105時間
授業目的 及び概要	<p>目的:「病気」とはどのような状態をいうかを理解し、看護職に必要な疾病の成り立ちの基礎を学ぶ。</p> <p>概要:1)疾病・障害の原因と病態を理解し、回復のための治療を理解する。</p> <p>2)生体組織に障害因子が加わったとき、組織や細胞を取り巻く環境に変化が生じたとき、生体がどのように対応し、回復し、あるいは死へと向かうのか、そのメカニズムを理解する。</p> <p>3)正常な人体のしくみ(身体の構造・解剖)と働き(機能・生理)が異常をきたした場合:疾患、異常のおこり方や原因:病態生理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液・造血器</li> <li>・循環器、呼吸器、脳・神経</li> <li>・腎・泌尿器</li> </ul>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	病理学総論 第1章、2章 (疾病の成り立ち、病気の種類とその要因)		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	第3章、4章 (先天異常、退行性病変と進行性病変)		
3	5・6	第5章、6章 (循環障害、炎症)		
4	7・8	第7章(腫瘍) 第11章 (臨床病理検査)		
5	9・10	病理学各論 第4章 血液・造血器疾患		
6	11・12	"		
	13	筆記試験		
1	14・15	病理学各論 第1章 呼吸器疾患(上気道の疾患~縦隔の疾患)		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	16・17	"		
3	18・19	"		
4	20・21	第2章 循環器疾患(虚血性心疾患~血管の病変)		
5	22・23	"		
6	24・25	"		
7	26・27	第7章 脳・神経疾患(頭部外傷~脳腫瘍)		
8	28・29	"		
	30	筆記試験		
1	31・32	腎・泌尿器疾患患者の看護		非常勤講師 (パワーポイント)
2	33・34	第1章 腎・泌尿器疾患の基本的知識 I 腎・泌尿器の構造と機能 II 主な症状と病態生理 III 主な検査 IV 主な治療法		
教科書	看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護 II 腎・泌尿器 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学入門 8 成人看護 I (メヂカルフレンド社)			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 医師 看護師
	疾病の成り立ちⅡ			
開講時期	1年 前期/後期		時間数	36時間/105時間
授業目的 及び概要	<p>目的:「病気」とはどのような状態をいうかを理解し、看護職に必要な疾病の成り立ちの基礎を学ぶ。</p> <p>概要:1)正常な人体のしくみ(身体の構造・解剖)と働き(機能・生理)が異常をきたした場合:疾患、異常のおこり方や原因:病態生理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器、内分泌・代謝、運動器、女性生殖器・乳腺</li> <li>・皮膚、膠原病、アレルギー</li> <li>・感覚器</li> </ul>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第3章 消化器疾患		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	I 口腔疾患 II 唾液腺疾患 III 食道疾患 IV 胃疾患		
3	5・6	V 腸疾患 VI 肝臓疾患 VII 胆嚢・胆道疾患 VIII 膵臓疾患		
4	7・8	第5章 内分泌・代謝疾患		
5	9・10	I 下垂体疾患 II 甲状腺疾患 III 副甲状腺疾患		
6	11・12	IV 副腎疾患 V 膵島腫瘍 VI 糖尿病 VII その他		
7	13・14	第8章 女性生殖器疾患・乳腺疾患		
8	15・16 17	I 性器疾患 II 子宮疾患 III 卵巣疾患 IV 乳腺疾患 筆記試験		
1	18・19	第10章 感覚器疾患		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	20・21	I 皮膚疾患		
3	22・23	疾病の成り立ち 皮膚疾患患者の看護		
4	24・25	第1章 皮膚疾患の基本的知識		
5	26・27	第2章 主な疾患とその治療		
6	28・29 30	第3章 皮膚疾患看護の基本 第4章 皮膚疾患患者の看護 まとめ 筆記試験		
1	31・32	知識確認		専任教員
2	33・34	眼疾患、耳鼻科疾患、血液疾患		
3	35・36	疾病の成り立ちまとめ		
教科書	看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ(メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学入門 8 成人看護Ⅰ(メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ(メヂカルフレンド社)			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	医師 専任教員 専任教員
	疾病の成り立ちⅢ			
開講時期	1年 前期/後期		時間数	35時間/105時間
授業目的 及び概要	<p>目的:自然界に存在する多くの微生物の中で病気を起こす微生物について理解し、看護に必要な感染予防や治療について学ぶ。</p> <p>概要:1)異物である微生物に対し生体がどのような防御機構を持つかを学び、予防接種の原理、抗体による治療や診断法を理解する。</p> <p>2)感染症の原因となる微生物について理解を深め、医療従事者が自己及び他を感染から守るための対策を学ぶ。</p> <p>3)臨床で行われる検査の基礎知識を理解し、検査時の看護を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	第8章 免疫	非常勤講師 (感染と予防)	
2	3・4	第9章 感染と予防		
3	5・6	I 微生物の基礎		
4	7・8	II 微生物と感染		
5	9・10	III 感染症法・検疫法		
6	11・12	IV 感染予防 V 感染症の検査・診断		
7	13・14	VI 感染症の治療 VII 感染症の診断に利用される免疫学的検査		
8	15・16	第10章 感染症の原因となる病原微生物		
9	17・18	I 細菌		
10	19・20	II ウイルス		
11	21・22	III 真菌 IV 原虫 V フリカン		
1	23・24	臨床検査と看護	専任教員 (パワーポイント)	
2	25・26	・主な検体検査 尿検査、便検査、喀痰検査、咽頭分泌物検査、血液検査でわかること		
3	27・28	・画像診断のための各種検査法 単純X線検査、造影検査、X線CT検査、MRI 超音波検査、上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査		
4	29・30	臨床検査とその介助「血液検査」	専任教員 (パワーポイント)	
5	31・32	採血		
6	33・34	穿刺 (1) 胸腔穿刺 (2) 腹腔穿刺 (3) 腰椎穿刺 (4) 骨髄穿刺		
	35	筆記試験	非常勤講師 専任教員 2名	
教科書	看護学入門3 疾病の成り立ち(メグカルフレッド社) 看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メグカルフレッド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 看護概論 I			
開講時期	1年 前期		時間数	35時間／70時間
授業目的 及び概要	<p>目的： 看護とは何かについて考え、自分の考えを表現できる。</p> <p>概要： 講義やグループワークを通し看護とは何か、看護の対象である人間とはどんな存在であるか、看護は何を目的に、どのような方法で行うのかについて考える。実際の看護活動について学び、自らの看護師像を考えるきっかけとする。</p> <p>災害時の看護、国際看護、保健医療福祉システムについて学び、多様な場において看護がどのように機能すべきかを学習する。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	本当の看護とそうでない看護（ナイチンゲール覚書）		専任教員
2	3・4	看護の歴史		
3	5・6	看護の対象としての人間 1		
4	7・8	看護の対象としての人間 2		
5	9・10	患者を理解するために		
6	11・12	〃		
7	13・14	看護理論家 GW		
8	15・16	〃		
9	17・18	ワールドカフェ（発表）		
10	19・20	健康の価値・健康観・健康の概念		
11	21・22	健康をまもるしくみと看護		
12	23・24	生命倫理と看護の倫理		
13	25・26	〃		
14	27・28	看護活動—看護の実施 1		
15	29・30	看護活動—看護の実施 2		
16	31・32	看護管理・医療安全		
17	33・34	職業としての看護		
18	35	筆記試験		
教科書	看護学入門 5 基礎看護 I 看護概論（メヂカルフレンド社）			
参考文献	ナイチンゲール「看護覚え書」 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」			
成績評価の方法	課題レポート 筆記試験 授業出席状況 授業態度			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術 I			
開講時期	1年 前・後期		時間数	17 時間/245 時間
授業目的 及び概要	<p>目標：看護技術とは何かを理解し，専門職としての看護技術の基礎を学ぶ。</p> <p>概要：看護技術を学ぶ前に，看護技術とは何か考える。</p> <p>観察，記録および報告の意義，種類，方法を学び，看護過程についての意義，構成要素を理解し，准看護師としてのかかわりを学ぶ。事例について考え理解を深める。</p> <p>患者のニーズと日常生活援助の基本について学び，患者の安全・安楽を守る看護の基礎知識について，今後学ぶ看護へ繋げる。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	看護技術とは何か	専任教員 (パワー ポイント)	
2	3・4	日常生活に対する理解と援助		
3	5・6	観察の意義，目的，種類，要件，方法，視点		
4	7・8	看護過程とは		
5	9・10	看護記録の意義，目的，種類，方法，管理		
6	11・12	報告の意義，目的，種類，方法		
7	13・14	安全を守る技術，医療事故		
8	15・16	安全と安楽について		
9	17	筆記試験		
教科書	看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 筆記試験 講義振り返り表			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅱ-1			
開講時期	1年 前・後期		時間数	10 時間/245 時間
授業目的 及び概要	<p>目的：自分を大切にし，他者も大切にすることをコミュニケーションの基礎的能力について学ぶ。</p> <p>概要：よりよい人間関係を築くことは，自分を知ることが重要となる。自己理解からの他者理解に発展することを理解し，まず自身がどのようなコミュニケーションを行い，人間関係を構築しているのかを考える。またコミュニケーションは相互作用であることを前提に，自身が相手にどのような影響を与えているのか考えられるようにし，日常生活におけるコミュニケーション方法についての基礎を知り，日常生活に活かしながら意図的なコミュニケーションを学ぶ基礎を作り，看護につなげられるように学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	自分の思考を自覚してみよう		専任教員
2	3・4	認知バイアスについて理解する		
3	5・6	看護におけるコミュニケーションの意味を知る		
4	7・8	アサーティブコミュニケーションについて		
	9・10	コミュニケーションの相互作用 コミュニケーション技術について		
5		終講試験		
		これらの内容を、進捗状況に合わせて順不同で学んでいく		
教科書	看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業参加度 (出欠状況・提出物・授業態度) 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	保健師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅱ-2			保健師 医師 牧師
開講時期	1年前・後期		時間数	35時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の心理を理解する手がかりとなる保健医療場面の心理的基礎，対象別の心理患者の心理を理解するための基礎を学ぶ。</li> <li>2. 健康・疾病・障害の心理学的基礎，患者の心理および家族とのかかわり方の基礎を学ぶ。</li> </ol> <p>概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の心理を理解する基礎として，個人の心理と行動，社会・集団の心理を学ぶ。</li> <li>2. 対象別にみた患者の心理について学ぶ。</li> <li>3. 疾病や障害の経過（時期）による患者の心理について学ぶ。</li> <li>4. 人のサイクルにおける疾病や障害の患者の心理について学ぶ。</li> <li>5. 患者や障害者の家族の心理にも思いをはせる。</li> </ol>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第2編 患者の心理 序章 患者の心理の理解と看護		非常勤講師 (パワーポイント)
2	3・4	第1章 人の心理と心の健康		
3	5・6	第6章 医療従事者の心理		
4	7・8	第2章 患者の心理の理解と支援		非常勤講師 パワーポイント
5	9・10	Ⅰ患者の心理の理解		
6	11・12	Ⅱ患者の思いに近づくための方法		
7	13・14			
8	15・16	まとめ		非常勤講師 (2名)
	17	筆記試験		
1	18・19	第3章 経過別にみた患者の心理の特徴		非常勤講師 (パワーポイント)
2	20・21	Ⅰ急性期にある患者の心理 Ⅱ回復期にある患者の心理		
3	22・23	Ⅲ慢性期にある患者の心理 Ⅳ終末期にある患者の心理		
4	24・25	(キューブラーロスの5段階の心理過程)		
5	26・27	第4章 治療を受ける患者の心理		
	28	まとめ 筆記試験		
6	29・30	第5章 療養の場からみた患者の心理		非常勤講師
7	31・32	Ⅰ入院患者の心理		
8	33・34	Ⅱ在宅療養中の患者の心理		
	35	筆記試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅲ			
開講時期	1年 前期		時間数	25時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活援助の意義について学び、理解を深める。</li> <li>2. 患者が快適な日常生活を過ごす事ができるよう、病棟の環境を整える為の援助方法について学習する。</li> <li>3. ベッドメイキングやリネン交換の技術を習得し、快適な環境を考える。</li> <li>4. 滅菌・消毒・感染予防の基礎知識を学び、感染予防の技術を習得する。</li> </ol> <p>概要：患者にとって、療養の場である病室は、患者が1日生活する場でもある。患者が身体を休め、治療に専念できる環境を整えることは看護師にとってとても大切な看護援助である。この科目では、患者が快適な日常生活を過ごすことができるよう、環境を整えるための援助方法について学習をする。快適な環境とはどんなものなのかを学び、実際に患者が1日の多くを過ごすベッドのベッドメイキングやリネン交換の技術を修得する。また、感染予防の看護技術として医療器具等を実際に触れながら、滅菌、消毒についての基礎的知識を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	<日常生活に対する援助> <環境調整の技術> 環境とは、生活環境の基礎知識（屋内気候 換気 光 音 色） 病床環境の調整		専任教員
2	3・4	ベッドメイキングの実際（リネン類の取り扱い、たたみ方）		
3	5・6	クローズドベッドのつくり方		
4	7・8	クローズドベッドのつくり方		
5	9・10	オープンベッドの作り方 臥床患者のリネン交換		
6	11・12	ベッドメイキング練習		
7	13・14	〃		
8	15・16	技術チェック		
9	17・18	〃		
10	19・20	<感染予防の技術> 高頻度接触部と環境整備		
11	21・22	スタンダードプリコーション 滅菌・消毒 衛生的手洗い		
12	23・24	滅菌手袋 個人防護（PPE） 無菌操作 医療廃棄物の処理		
13	25	終講試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）			
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅳ			
開講時期	1年 前期		時間数	18時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：姿勢の保持や活動と休息のバランスを理解し、対象が安全安楽で自立した生活ができるよう援助方法を習得する。</p> <p>概要：良い姿勢の保持や活動・休息の意義・目的を理解し、充足できない場合の身体面・精神面・社会面への影響について考え看護の必要性を理解する。安全安楽自立に向けた援助を講義や学内演習を通して学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	姿勢と動作の基礎知識 姿勢の種類と特徴、安楽な姿勢、ボディメカニクス	専任教員 (パワー ポイント)	
2	3・4	体位変換の援助 移動・移送の援助		
3	5・6	学内演習		
4	7・8	学内演習		
5	9・10	活動と休息の援助		
6	11・12	褥瘡予防のための援助 褥瘡とは 褥瘡の予防 褥瘡の治療 褥瘡ケア		
7	13・14	包帯法の基礎知識・包帯法の演習		
8	15・16	体位変換・移動・移送の安全安楽自立への援助方法まとめ		
9	17・18	終講試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅴ			
開講時期	1年 前期・後期		時間数	35時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：基本的看護の構成要素である呼吸を助け体温を保持することで、対象が安全安楽自立に向けた日常生活が送れるよう援助方法を学ぶ。</p> <p>概要：バイタルサインの意義・目的を理解する。安全安楽自立の視点を持ち、対象者に応じた観察方法と測定技術を講義・学内演習を通して学ぶ。呼吸を助け、体温保持の意義・目的を理解し安全安楽を考えたフィジカルイグザミネーションの看護技術の方法を講義・学内演習を通して学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	<バイタルサイン> バイタルサインとは、意識障害の観察 呼吸の生理、種類、観察、測定方法、呼吸の異常、Spo2 脈拍の生理、観察、脈拍の異常、測定方法 血圧の生理、観察、血圧計 血圧の測定方法 体温の生理、観察、代表的な熱型、測定方法、 学内演習 学内演習 学内演習 学内演習 技術チェック 技術チェック <罨法>罨法の意義と看護、罨法の基礎知識、温罨法・冷罨法 <吸入>吸入の基礎知識、実施上の注意点 <吸引>吸引の基礎知識、実施上の注意点 <吸引・吸入>演習 体温表記入方法・まとめ 終講試験		専任教員 (パワーポイント)
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
7	13・14			
8	15・16			
9	17・18			
10	19・20			
11	21・22			
12	23・24			
13	25・26			
14	27・28			
15	29・30			
16	31・32			
17	33・34			
18	35			
教科書	看護学入門Ⅵ 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア) Vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業出席状況、態度(演習に欠席がある場合は試験を受けられない可能性がある)、技術試験、筆記試験、課題提出状況			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術VI			
開講時期	1年 前期・後期		時間数	35時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：基本的欲求のひとつである清潔援助の意義が理解できる。 持っている知識を活かして、対象の清潔援助の必要性が理解できる。 対象に合わせた安全安楽な清潔の方法が考えられる。</p> <p>概要：身体を清潔にすることの目的を理解する。そのことから、身体を清潔にすることが自ら十分に満たされない時、身体面・精神面・社会面への影響について考え、看護の必要性を理解する。対象者が安全安楽な日常生活を送るために必要な援助技術について講義や学内演習を通し学ぶ。事例を通し、学生自ら対象にとって安全安楽な自立性のある看護技術の方法を考え、実際に実践する。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	清潔の意義・目的		専任教員
2	3・4	安全安楽な清潔ケアとは、衣生活の援助		
3	5・6	寝衣交換（学内演習）		
4	7・8	寝衣交換（学内演習）		
5	9・10	手浴・足浴（学内演習）		
6	11・12	陰部洗浄（陰部モデルを使用した演習）		
7	13・14	洗髪・整容		
8	15・16	洗髪（学内演習）		
9	17・18			
10	19・20	全身清拭・熱布清拭（学内演習）		
11	21・22			
12	23・24	口腔ケア（学内演習）		
13	25・26	事例に基づいた演習（学内演習）		
14	27・28	全身清拭・寝衣交換		
15	29・30	事例に基づいた演習（学内演習）		
16	31・32	上記の内容を、進捗状況に合わせて順不同で学習する		
17	33・34			
18	35	まとめ 終講試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア） Vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）			
成績評価の方法	授業参加度（出席状況・提出物・授業態度） 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅶ-1			
開講時期	1年 前期		時間数	15時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的： 基本的欲求のひとつである食事に対する援助の必要な対象を理解し，対象が安全で安楽な生活を自立して遅れるために必要な援助を学ぶ。</p> <p>概要： 人間にとって，食事をすることの意義と目的を理解する。このことから，何らかの理由により食事を摂ることができない時の生理的・心理的・社会的な影響について考え，看護の必要性を理解する。対象が安全で安楽な生活を自立して送るために必要な援助方法について事例を通し，講義や学内演習で考え，実践できる力を養う。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	<食生活の援助> 食事の意義と目的 食べるために必要な機能、嚥下のプロセス	専任教員 (パワー ポイント)	
2	3・4	多様な摂取方法と看護師の役割 食事の種類と形態 経管栄養法 中心静脈栄養法 (TPN)		
3	5・6	【演習】食事援助の実際		
4	7・8	【演習】事例に合わせた援助を考える (片麻痺、視覚障害など)		
5	9・10			
6	11・12	【演習】経管栄養法を受ける患者の看護 まとめ		
7	13・14	【演習】身体計測と栄養状態の把握 身長、体重、胸囲、腹囲、握力、肺活量、BMI 計算		
8	15	終講試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅶ-2			
開講時期	1年 前期		時間数	20時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：排泄の正常と異常、排泄援助の意義を理解し、排泄障害が人間に及ぼす影響を考え、対象にあわせた安全安楽自立の援助方法を実施する。</p> <p>概要：排泄は人間の基本的欲求であり、生命の維持に欠かせない生理現象であるが排泄という行為には不潔や性というイメージがあり、羞恥心も強く、他人に見られたくない行為ととらえている。そのため、援助を受けることの苦痛も大きく、羞恥心や気兼ねから援助を依頼しづらいという心理も生じやすい。また、失禁や排泄の失敗体験は患者の自尊心を大きく傷つける場合がある。自分で排泄行動がとれない患者の心理状態を、演習を通して体験し、羞恥心、自尊心に配慮した援助方法について考え実施する。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	【演習】排泄の援助とは 正常と異常、物品を知る	専任教員 ・パワー ポイント	
2	3・4	排尿・排便の援助の方法		
3	5・6	【演習】		
4	7・8	【演習】尿器・便器・おむつを使った排泄援助方法		
5	9・10	浣腸・摘便・導尿の援助方法		
6	11・12	【演習】		
7	13・14	【演習】浣腸・摘便・導尿の援助方法		
8	15・16	胃洗浄・膀胱洗浄の援助の方法 事例 ストーマケア		
9	17・18	排泄場面の KYT		
10	19・20	終講試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) 看護がみえる Vol.2 基礎看護技術 (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 課題提出状況(10%) 筆記試験(90%)			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師
	基礎看護 基礎看護技術Ⅷ			
開講時期	1年 後期		時間数	35時間/245時間
授業目的 及び概要	<p>目的：患者に行われる医療行為の目的・内容について、医療者 - 患者の双方の立場から理解することができる。患者に安全で、身体的・精神的な負担が最小限になるための援助方法を考え実施できる。</p> <p>概要：医師による健康状態の判断・疾病の診断・治療方針の選択・治療効果の確認のため行われる診療の補助の実際を理解する。対象にとって身体侵襲を伴う行為であるため、患者の心身に及ぼす影響を把握し、患者の負担が最小限になるような援助実際を学ぶ。また目的どおりの診療が安全に行われ、正確な情報が得られる援助の実際を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	診療・処置に用いられる物品の種類と取り扱い方	専任教員 (パワー ポイント)	
2	3・4	採血 振り返りミニテスト 【演習】注射器の準備		
3	5・6	【演習】静脈血採血(シリンジ)		
4	7・8	【演習】静脈血採血(シリンジ)		
5	9・10	【演習】静脈血採血(シリンジ・ホルダー)		
6	11・12	【演習】静脈血採血(シリンジ)		
7	13・14	【演習】技術チェック (静脈血採血)		
8	15・16	振り返りミニテスト		
9	17・18	与薬とは 経口の与薬 直腸内与薬 経皮吸収パッチ 点眼 点耳 点鼻 吸入 注射法 皮下注射 筋肉内注射 皮内注射 静脈内注射 輸液ポンプ 点滴静脈内注射		
10	19・20	【演習】静脈内注射 (ワンショット投与)		
11	21・22	【演習】静脈内注射 (点滴静脈内注射)・皮内注射		
12	23・24	輸血とは		
13	25・26	【演習】皮下注射・筋肉内注射		
14	27・28	【演習】皮下注射・筋肉内注射		
15	29・30	【演習】皮下注射・筋肉内注射		
16	31・32	【演習】技術チェック (皮下注射・筋肉内注射)		
17	33・34	【演習】技術チェック (皮下注射・筋肉内注射)		
18	35	筆記試験		
教科書	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) 看護がみえる Vol.2 基礎看護技術 (メディックメディア)			
成績評価の方法	授業出席状況 授業態度 課題の提出(10%) 技術チェック 筆記試験(90%)			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師	保健師
	基礎看護 臨床看護概論 I			看護師	看護師
開講時期	1年 前・後期		時間数	35 時間 / 70 時間	
授業目的 及び概要	<p>目的：健康障害のある患者とそれを支える家族がどのような状況におかれ、どのような援助が必要となるかを、医療および看護の視点から多角的に学習する。</p> <p>概要：内科的治療・処置を受ける患者の看護を学習する。</p>				
回数	時間	授業内容			担当者
1 2 3 4	1・2 3・4 5・6 7・8	臨床看護概論 第1章 臨床看護の特徴 第2章 臨床看護活動と患者・家族の理解 第3章 健康状態（レベル）の経過に伴う看護			非常勤講師 ・パワー ポイント
1 2 3 4	9・10 11・12 13・14 15・16	臨床看護概論 第5章 治療・処置に伴う看護 II 食事療法 III 薬物療法 IV 輸液療法 治療概説 第1章 薬物療法 I～II 第3章 食事療法 第5章 輸液療法			非常勤講師 ・パワー ポイント
1	17・18	第5章 治療・処置に伴う看護 I 安静療法 VIII 検査			非常勤講師 (パワーポイント)
1 2 3	19・20 21・22 23・24	臨床看護概論 第5章 V 放射線療法を受ける患者の看護 VII 精神療法を受ける患者の看護 IX 救急処置を受ける患者の看護 X ICU の看護 治療概説 第6章 放射線療法 第8章 救急時の対応			漆 原 ・パワー ポイント
1 2 3 4	25・26 27・28 29・30 31・32	臨床看護概論 第6章 継続看護と多様な場における看護 治療概説 第7章 透析療法			非常勤講師 ・パワー ポイント
1 2	33 34・35	筆記試験 筆記試験			非常勤講師 (5名)
教科書	看護学入門 7 基礎看護Ⅲ 臨床看護概論 (メヂカルフレンド社)				
参考文献	看護学入門 3 疾病のなりたち 臨床病理検査				
成績評価の方法	筆記試験				

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師
	成人看護Ⅰ 呼吸器・血液・脳神経 内分泌・代謝			医師 医師 医師
開講時期	1年前・後期		時間数	35時間／210時間
授業目的 及び概要	<p>1. 目的：健康障害の病態生理と症候について，系統的に疾病の成り立ちや治療方法，回復の過程を学ぶ。</p> <p>概要： 1) 呼吸器疾患・血液疾患 2) 脳・神経疾患 3) 内分泌・代謝疾患</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	呼吸器疾患患者の看護	非常勤講師 (パワーポイント)	
2	3・4	第1章 呼吸器疾患の基本的知識		
3	5・6	I 構造と機能 II 主な症状と病態生理 III 主な徴候（身体所見）と		
4	7・8	検査 IV 主な治療・処置		
5	9・10	第2章 主な疾患とその治療		
6	11・12	I～X		
7	13・14	血液・造血器疾患患者の看護	非常勤講師 (パワーポイント)	
8	15・16	第1章 血液・造血器疾患患者の基本的知識		
9	17・18 19	第2章 主な疾患とその治療 筆記試験		
1	20・21	脳神経疾患患者の看護	非常勤講師	
2	22・23	第1章 脳神経疾患の基礎的知識		
3	24・25	I 構造と機能 II 主な症状と病態生理		
4	26・27 28	第2章 主な疾患とその治療 I 脳神経疾患 II 筋疾患 III 発作性疾患 IV 中毒性疾患 筆記試験		
1	29・30	内分泌・代謝疾患患者の看護	非常勤講師 (パワーポイント)	
2	31・32	第1章 内分泌・代謝疾患の基礎的知識		
3	33・34 35	第2章 主な疾患とその治療 I 下垂体の主な疾患 II 甲状腺の主な疾患 III 副甲状腺の主な疾患 IV 副腎の主な疾患 V 膵島腫瘍 VI 性腺の主な疾患 VII 乳腺の主な 疾患 VIII 代謝疾患（糖尿病） IX その他の代謝疾患 筆記試験		
教科書	看護学入門8 成人看護Ⅰ（メヂカルフレンド社）呼吸 血液・造血器 看護学入門9 成人看護Ⅱ（メヂカルフレンド社）脳神経 内分泌・代謝			
参考文献	看護学入門1 人体のしくみと働き（メヂカルフレンド社）			
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師 医師 医師 医師
	成人看護Ⅱ 消化器・腎泌尿器・女性生殖器			
開講時期	1年 前・後期		時間数	34 時間／210 時間
授業目的 及び概要	<p>1. 目的：健康障害の病態生理と症候について，系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。</p> <p>概要： 1) 消化器疾患 2) 腎・泌尿器疾患 3) 女性生殖器</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	消化器疾患患者の看護		非常勤講師 非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	第1章 消化器疾患の基本的知識		
3	5・6	Ⅰ構造と機能 Ⅱ主な症状と病態生理 Ⅲ主な検査 Ⅳ主な治療・処置		
4	7・8	〃		
5	9・10	第2章 主な疾患とその治療		
6	11・12	Ⅰ口腔・食道の疾患 Ⅱ胃・十二指腸の疾患 Ⅲ腸・腹膜の疾患		
7	13・14	Ⅳ肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓の疾患 Ⅴ肛門の疾患		
8	15・16	Ⅵ薬物の有害反応による消化器疾患 Ⅶ急性腹症		
9	17・18	〃		
	19	筆記試験		
1	20・21	病理学各論 第6章 腎・泌尿器疾患 Ⅰ腎臓の疾患 Ⅱ尿路・男性生殖器疾患		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	22・23	腎・泌尿器疾患患者の看護		
3	24・25	第2章 主な疾患とその治療		
4	26・27	Ⅰ腎臓の主な疾患 Ⅱ尿管の主な疾患 Ⅲ膀胱の主な疾患 Ⅳ前立腺の主な疾患 Ⅴ尿道の主な疾患 Ⅵ陰嚢・精巣の主な疾患		
5	28・29 30	Ⅶ陰茎の主な疾患 筆記試験		
1	31・32	女性生殖器疾患患者の看護		非常勤講師
2	33・34	第1章 女性生殖器疾患の基本的知識 第2章 主な疾患とその治療		
教科書	看護学入門 8 成人看護Ⅰ 消化器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 腎・泌尿器 女性生殖器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 12 母子看護 母性の看護 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 3 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師 医師
	成人看護Ⅲ 運動器・リハビリ・循環器			
開講時期	1年 前・後期		時間数	34時間／210時間
授業目的 及び概要	<p>2. 目的：健康障害の病態生理と症候について、系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。</p> <p>概要： 1) 運動器疾患・リハビリテーション 2) 循環器疾患</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	骨・関節・筋疾患患者の看護		非常勤講師 (パワポイト)
2	3・4	第1章 骨・関節・筋疾患の基本的知識 I 構造と機能 II 診察と計測 III 主な症状と病態生理 IV 主な検査		
3	5・6	疾病の成り立ち 第9章 運動器疾患		
4	7・8	第2章 主な疾患とその治療		
5	9・10	I 主な治療の種類と適応 II 主な疾患の治療		
6	11・12	III リハビリテーション		
7	13・14 15	治療法概説 第4章 リハビリテーション 筆記試験		
1	16・17	循環器疾患患者の看護		非常勤講師
2	18・19	第1章 循環器疾患の基本的知識		
3	20・21	I 構造と機能 II 主な騒擾と病態生理		
4	22・23	III 主な検査 IV 主な治療・処置		
5	24・25	第2章 主な疾患とその知識		
6	26・27	I 心不全 II ショック III 不整脈 IV 心臓弁膜症		
7	28・29	V 虚血性心疾患 VI 心筋・心膜疾患 VII 心筋症		
8	30・31	VIII 血圧異常 IX 脈管疾患 XI そのほかの疾患		
9	32・33 34	筆記試験		
教科書	看護学入門 3 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社) 看護学入門 7 基礎看護Ⅲ 特論：治療法概説 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 8 成人看護Ⅰ 循環器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 骨・関節・筋 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師
	成人看護Ⅳ 皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯・口 腔疾患			医師 医師 医師 医師
開講時期	1年 後期		時間数	35時間／210時間
授業目的 及び概要	<p>目的：健康障害の病態生理と症候について、系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。</p> <p>概要： 1) 皮膚疾患 2) 眼科疾患 3) 耳鼻咽喉疾患 4) 歯・口腔疾患</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	アレルギー疾患・膠原病疾患患者の看護		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	第1章 アレルギー疾患・膠原病疾患の基本的知識		
3	5・6	第2章 主な疾患とその治療		
4	7・8	第3章 アレルギー疾患・膠原病の看護の基本		
5	9・10 11	第4章 アレルギー疾患・膠原病疾患患者の看護 筆記		
1	12・13	眼疾患患者の看護		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	14・15	第1章 眼疾患の基本的知識		
3	16・17	第2章 主な疾患とその治療		
4	18・19	第3章 眼疾患看護の基本 第4章 眼疾患患者の看護 まとめ		
1	20・21	耳鼻咽喉疾患患者の看護		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	22・23	第1章 耳鼻咽喉疾患の基本的知識		
3	24・25	第2章 主な疾患とその治療		
4	26・27	第3章 耳鼻咽喉疾患看護の基本 第4章 耳鼻咽喉疾患患者の看護		
1	28・29	歯・口腔疾患の基本的知識		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	30・31	第1章 歯・口腔疾患の基本的知識		
3	32・33	第2章 主な疾患とその治療 第3章 歯・口腔疾患看護の基本 第4章 歯・口腔疾患患者の看護		
	34・35	筆記試験		非常勤講師 (3名)
教科書	看護学入門 9 成人看護Ⅱ アレルギー 膠原病 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 皮膚 眼 耳鼻咽喉 歯・口腔 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師 助産師
	成人看護Ⅴ			
開講時期	1年前・後期		時間数	37時間／210時間
授業目的 及び概要	<p>目的：成人期にある人々の特徴を理解し，外科的治療および内科的治療を必要とする患者の急性期から回復期，および慢性期にいたる疾病段階にある人々に対して必要な看護について学ぶ。</p> <p>概要：1) 呼吸器 消化器 循環器 2) 血液 脳神経 運動器 3) 腎・泌尿器 4) 女性生殖器</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1 2 3 4 5	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11	成人看護概論 成人看護の理解 I 成人看護の対象の理解 II 成人各期の発達段階とその特徴 III 成人期の生活と健康障害 IV 成人看護の特徴と役割 感染症・結核患者の看護 第3章 感染症・結核患者看護の基本 第4章 感染症・結核患者の看護 腎・泌尿器疾患患者の看護 第3章 腎・泌尿器看護の基本 第4章 腎・泌尿器患者の看護 筆記試験		非常勤講師 (パワー ポイント)
1 2 3 4 5 6	12・13 14・15 16・17 18・19 20・21 22・23 24	呼吸器疾患患者の看護 第3章 呼吸器疾患看護の基本 第4章 呼吸器疾患患者の看護 循環器疾患患者の看護 第3章 循環器疾患看護の基本 第4章 循環器疾患患者の看護 消化器疾患患者の看護 第3章 消化器疾患看護の基本 第4章 消化器疾患患者の看護 筆記試験		非常勤講師 (パワー ポイント)
1 2 3 4 5	25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35	血液・造血器疾患患者の看護 第3章 血液・造血器疾患看護の基本 第4章 血液・造血器疾患患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 第3章 内分泌・代謝疾患看護の基本 第4章 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳神経疾患患者の看護 第3章 脳神経疾患看護の基本 第4章 脳神経疾患患者の看護 骨・関節・筋疾患患者の看護 第3章 骨・関節・筋疾患看護の基本 第4章 骨・関節・筋疾患患者の看護 筆記試験		非常勤講師 (パワー ポイント)
1	36・37	女性生殖器疾患患者の看護 第3章 第4章		非常勤講師
教科書	看護学入門 8 成人看護Ⅰ 呼吸器 消化器 循環器 血液 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 脳神経 腎・泌尿器 内分泌・代謝 感染症 女性生殖器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 骨・筋・関節 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 13 母子看護 母性の看護 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者	看護師 看護師
	老年看護		資格・役職等	看護師
開講時期	1年 後期		時間数	35時間/212時間
授業目的 及び概要	<p>目的：高齢者の特徴と老年期の看護の役割を学ぶ</p> <p>概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「老化」により、高齢者の体や精神がどう変化するかを理解する。</li> <li>高齢者を取り巻く社会環境と介護保険について学ぶ。</li> <li>医療機関以外の「介護の場」での看護師の役割を理解する。</li> <li>老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解した上で、高齢者の生活を支える看護の視点と看護の実際について学ぶ。</li> <li>高齢者に多い疾患の看護について学ぶ。</li> <li>老年期にある患者の事例を用い症状のアセスメント及びケアプランについて考え、看護過程の展開への参加のために必要な知識、技術、思考過程を学ぶ。</li> </ol>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	<p>高齢者を取り巻く社会と生活の理解</p> <p>ア) 統計学的資料より我が国の高齢化について経過を理解するとともに、高齢化社会の抱える問題点について考察する。</p> <p>イ) 老化の概念を知るとともに、老化による身体の各種臓器の起こる変化や老化による心の変化を学ぶことにより、高齢者を深く理解できるようにする。</p>		非常勤講師 (パワーポイント)
2	3・4	<p>高齢者の生活を支える看護の視点</p> <p>ア) 高齢者看護において求められる看護の基本的姿勢(コミュニケーションの取り方)や介護保険施行後に出現した様々な看護の場における、それぞれの看護の仕方を理解する。</p> <p>イ) また、介護保険の理念である「高齢者への自立支援」について学ぶ。「高齢者への看護」という直接的な自立支援のみではなく、看護師は「家族への援助技術」とおして支援を行えることを理解する。</p>		
3	5・6	<p>高齢者が豊かに生きる為に</p> <p>ア) 高齢者に特有の認知症の症状について、その内容を中核症状と周辺症状に分類して理解する。また、その原因疾患であるアルツハイマー病や多発性脳梗塞についても理解を深める。</p> <p>イ) 廃用症候群を予防するためのリハビリテーションの仕方やアクティビティケアについて学ぶ。</p>		
4	7・8	<p>高齢者の生活を支える社会と場</p> <p>ア) 高齢者の生活を支える社会的背景を年代的経過から理解する。すなわち、老人福祉法や同保健法の成立からゴールドプランにより様々な施設が整備された事、また措置制度に代わって出現した介護保険制度をその仕組みについて学ぶ。</p> <p>イ) 訪問看護ステーションの役割と在宅生活における高齢者の看護について考察する。</p>		
	9	筆記試験		
1	10・11	老年看護		非常勤講師 (パワーポイント)
2		第4章 高齢者看護の特徴		
3	12・13	I 日常生活の自立に対する援助 II 日常生活における援助技術		
4		III 検査・治療に伴う高齢者の看護		
	14・15	第5章 高齢者に多い疾患と看護		
	16・17	I 認知症 II うつ病 III 骨粗鬆症 IV 変形性膝関節症・脊柱管狭窄症		
5	18・19	V 大腿骨髌部骨折 VI 高齢者に多い慢性疾患 VII 悪性腫瘍(がん) VIII 感染症		
	20	筆記試験		
1	21・22	看取りの看護		専任教員 (パワーポイント)
2	23・24	看取りの看護 まとめ		
3	25・26	老年期患者の看護過程の展開に必要な知識		
4	27・28	老年看護の実際		
5	29・30	老年看護の実際		
6	31・32	老年看護の実際		
7	33・34	老年看護の実際		
8	35	まとめ・知識確認		
教科書	看護学入門 11 老年看護 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	看護学入門 6 基礎看護 II 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)			
成績評価の方法	筆記試験、授業出席状況、授業態度、課題提出状況(提出期限厳守)			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師 助産師 看護師
	母子看護 母性看護			
開講時期	1年 後期 2年 前期		時間数	35時間/70時間
授業目的 及び概要	<p>目的：女性のライフサイクルの各期における特徴と必要な看護について理解する。</p> <p>概要：1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常と異常，疾患について学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥各期の経過および妊婦・産婦・褥婦の看護に関する基本的な知識を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	母性の看護	非常勤講師	
2	3・4	第2章 正常な妊婦、産婦、褥婦および新生児の理解		
3	5・6	I 妊娠 II 分娩		
4	7・8	III 産褥 IV 新生児		
5	9・10	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常		
6	11・12	I 妊娠の異常（ハイリスク妊娠） II 分娩の異常		
7	13・14	III 産褥の異常 IV 新生児の異常		
	15	筆記試験		
1	16・17	第1章 母性看護概論	非常勤講師	
2	18・19	I 母性看護とは II 母性の特徴 III 母性各期の特徴と看護		
3	20・21	IV 母子保健の現状と動向 V 女性の健康と権利に関する概念		
4	22・23	VI 母性看護における安全管理		
5	24・25	第3章 妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護		
6	26・27			
7	28・29	第5章 妊婦、産婦、褥婦および新生児の異常と看護		
	30	筆記試験		
1	31	分娩・産褥，新生児について知識確認	専任教員 (パワポイント)	
2	32・33	沐浴実習・新生児のバイタルサイン・計測		
3	34・35	〃 まとめ		
教科書	看護学入門 12 母子看護 母性の看護 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師 保健師
	母子看護 小児看護			
開講時期	1年 後期		時間数	35時間/70時間
授業目的 及び概要	<p>目的：小児各期に特有な疾患と看護について学習する。</p> <p>概要： 1. 小児各期に特有な疾患について学ぶ。  2. 看護の対象となる小児の特徴を理解し、小児看護についての理解を深める。  3. 小児の成長発達の特徴を理解し、子どもと家族への看護を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	第2章主な小児疾患 I 小児疾患の特徴 II 先天性疾患	非常勤講師 (パワーポイント)	
2	3・4	III 出生時の疾患 IV 成長・発育の障害		
3	5・6	V 呼吸器系の疾患 VI 循環器系の疾患		
4	7・8	VII 消化器系の疾患		
5	9・10	VIII 血液・造血器系の疾患 IX 内分泌系疾患 X 代謝疾患		
6	11・12	XI 腎・尿路・生殖器系の疾患 XII 脳・神経・筋系の疾患		
7	13・14	XIII 免疫・アレルギー疾患、膠原病		
8	15・16 17・18	XIV 感染症 XV 皮膚疾患～ⅪⅡそのほかの小児疾患・問題 まとめ 筆記試験		
1	19・20	第1章小児の看護概論 I 小児看護の基本 II 小児保健 III 小児の解剖・生理	非常勤講師 (パワー ポイント)	
2	21・22	IV 小児の成長発達 V 小児の栄養 VI 発達段階ごとの小児の看護		
3	23・24	VII 小児の養護 VIII 小児の疾病予防 IX 小児の精神保健		
4	25・26	第3章小児の多様な場における看護		
5	27・28	第4章小児の看護技術と状況・状態・症状別看護 I プレパレーション II 小児看護の特殊技術		
6	29・30	III 特殊な問題をもつ小児の看護 IV 主な症状に対する看護		
7	31・32	第5章主な小児疾患患者の看護 I 低出生体重児（未熟児）の看護 II 新生児の疾患と看護 III 乳児の栄養障害と看護		
8	33・34 35	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、救急と看護、まとめ 筆記試験		
教科書	看護学入門 12 母子看護 小児の看護（メヂカルフレンド社）			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	医師 看護師 看護師
	精神看護 I			
開講時期	1年 前・後期		時間数	35時間/70時間
授業目的 及び概要	<p>目的：精神障害を持つ患者の疾患と看護について学ぶ。</p> <p>概要： 1. 精神医療の総論，精神症状・疾患，治療について学ぶ。 2. 精神障害を持つ患者の看護について学ぶ。 3. 精神看護の課題と展望</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第3章 精神障害者の診療		非常勤講師
2	3・4	I 精神障害者に関する統計的知識 II 精神障害の原因と種類		
3	5・6	III 精神障害の症状と精神状態 A 精神障害にかかわる個々の症状		
4	7・8	B 精神状態像と症候群		
5	9・10	IV 精神障害の診察と検査		
6	11・12	第4章 主な精神障害の治療 I 精神障害治療の考え方		
7	13・14	II 各障害の分類と治療		
8	15・16 17・18	A 精神認知障害～C 統合失調症スペクトラム障害および他 D うつ病と双極性障害～L 小児期および青年期に発症する行動及び情緒の障害		
		授業のまとめ，医療に係わる雑談【パワーポイント・書画カメラ】 復習 筆記試験		
1	19・20	倫理 セルフケア 人との関係性のバランス【パワーポイント】		非常勤講師 (パワーポイント) 非常勤講師 (パワーポイント)
2	21・22	リエゾン活動 認知症ケア 【パワーポイント】		
3	23・24	自分を知る 他者を知る 自己紹介他者紹介 精神障害を持つ人と関わる時の視点		
4	25・26	長野赤十字病院の紹介 精神科外来と病棟の紹介 精神科救急 精神科身体合併症 コードブルー RRT		
5	27・28	患者とのコミュニケーション		
6	29・30	多職種連携 チーム医療 周産期における多職種連携		
7	31・32	精神科リスクマネジメント 自殺企画 自傷行為 CVPPP 薬物の有害事象 アンガーマネジメント		
8	33・34 35	まとめ 筆記試験		
教科書	看護学入門 13 精神看護 (メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目		専門分野 精神看護Ⅱ	担当者 資格・役職等	看護師 大学助教
開講時期		1年 後期	時間数	35時間／70時間
授業目的 及び概要		<p>目的：心の健康を保持増進させるための基本的な知識と看護の役割を学ぶ。</p> <p>概要：1. 精神看護の機能・役割，看護の実際について知り，精神を病む人への看護援助の基本について学ぶ。</p> <p>2. 心の働きと，その発達のプロセス及び心の健康の概念について，精神発達や性の発達の観点から理解し，精神保健の意義について認識を深め，人間の心理を理解する。</p>		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第5章 精神障害者の看護		非常勤講師
2	3・4	Ⅰ 精神障害の見方と患者とのコミュニケーション		
3	5・6	Ⅱ 精神障害者看護の基本		
4	7・8	Ⅲ精神科医療の実際と福祉的視点		
5	9・10	Ⅳ精神科看護の場とその看護		
6	11・12	Ⅴ経過と看護		
7	13・14	Ⅵ症状と看護		
8	15・16 17・18	Ⅶ治療に伴う援助  Ⅷ統合失調症患者の看護の事例 復習 筆記試験		
1	19・20	序章 精神看護のとらえ方		非常勤講師 (パワーポイント)
2	21・22	第1章 心の健康と発達		
3	23・24	第2章 心の動きと危機		
4	25・26	第6章精神保健福祉の変遷 Ⅰ 精神医療の歴史		
5	27・28	Ⅱ わが国の精神保健福祉の歴史		
6	29・30	第7章精神福祉対策 Ⅰ 精神保健福祉のとらえ方		
7	31・32	Ⅱ 精神保健福祉の資源と対策		
8	33・34 35	第8章 精神的健康の保持・増進 筆記試験		
教科書		看護学入門13 精神看護 (メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験 出席状況 授業態度		

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	保健師
	保健医療福祉のしくみ			
開講時期	2年 前期		時間数	22時間/35時間
授業目的 及び概要	<p>目的：現代の日本における保健医療福祉のしくみについて理解し、看護専門職として、幅広い視野を持ち、看護の対象者に適切な援助ができる基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>概要：私たちが、生活している環境は、保健医療福祉のしくみに守られている。身近な事柄から、保健医療福祉に関連した内容を理解し、看護を行なっていくうえで専門職者として必要な知識を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	医療のしくみ 第1章 現代医療とヘルスケア		非常勤講師
2	3・4	第2章 現代医療のしくみ 第3章 現代医療の倫理		
3	5・6	公衆衛生のしくみ 第1章 公衆衛生とは		
4	7・8	第2章 環境と生体		
5	9・10	第3章 疾病の予防		
6	11・12	第4章 人口と衛生統計 第5章 保健活動		
7	13・14	社会福祉のしくみ 第1章 現代社会における社会福祉の意味		
8	15・16	第2章 社会福祉の発展		
9	17・18	第3章 社会福祉制度と実施体制 第4章 社会福祉の援助とソーシャルワーク		
10	19・20	第5章 社会保険と関連制度 第6章 これからの社会福祉		
	21・22	まとめ 筆記試験		
教科書	看護学入門 4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律(メグカルフレッド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門基礎分野		担当者 資格・役職等	看護師
	看護と法律			
開講時期	2年 前期/後期		時間数	13時間/35時間
授業目的 及び概要	<p>目的：看護専門職として必要な制度や法律について学ぶ。</p> <p>概要：看護職が看護を行うためには、看護の専門的な知識や技術を身につけることは大事であるが、活動をするために専門分野に関する各種の制度や法律を理解し、「看護」の専門性について認識しておくことも重要である。円滑な看護活動を行うために制度や法律が存在することを認識し、基本的な制度、法律について学んでいく。</p>			
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	序章 なぜ法律や制度を学ぶのか	非常勤講師	
2	3・4	第1章 生活者の健康に関する法規とは 第2章 保健医療提供体制に関連する法規		
3	5・6	第3章 保健衛生対策に関連する法規		
4	7・8	第4章 医薬品・医療機器等に関連する法規		
5	9・10	第5章 保険・福祉等に関連する法規		
6	11・12	第6章 雇用・労働の法規 第7章 生活衛生・環境保全関連の法規		
	13	筆記試験		
教科書	看護学入門 4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律(メヂカルフレンド社)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	大学助教
	基礎看護 看護概論Ⅱ			
開講時期	2年 前期		時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要	<p>目的： 人間の尊厳を基盤にした看護の専門職業人としての良識ある判断と行動が行われるような倫理観を養う。</p> <p>概要： 看護の倫理規定に関する基本原則を理解し、看護職の直面する諸々の倫理的問題の解決に向けて、看護の視点から保健・医療・福祉における倫理的意志決定について学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第3編 看護の倫理と歴史		非常勤講師 (パワー ポイント) (倫理)
2	3・4	第1章 看護における倫理		
3	5・6	Ⅰ倫理とは		
4	7・8			
5	9・10	Ⅱ職業倫理と倫理原則		
6	11・12			
7	13・14	Ⅲ看護の場における倫理		
8	15・16			
9	17・18	Ⅳ看護におけるケアの倫理		
10	19・20			
11	21・22	Ⅴ現代医療の場で求められる看護師の倫理		
12	23・24	第2章 看護の場で生じやすい倫理上の問題とその対応		
13	25・26	Ⅰ倫理上の問題が生じやすい背景		
14	27・28			
15	29・30	Ⅱ事例検討		
16	31・32			
17	33・34	まとめ		
18	35	筆記試験		
教科書	看護学入門5 基礎看護〔1〕看護概論 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			
成績評価の方法	課題レポート内容 (個人ワーク・グループワーク・授業リフレクション) 事例演習の発表 出席状況で総合的に判定する			

授業科目	専門分野		担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師
	基礎看護 臨床看護概論Ⅱ			
開講時期	2年 前期		時間数	35時間／70時間
授業目的 及び概要	<p>目的：主要な症状を示す患者の看護について理解を深める。</p> <p>概要：外科的治療・処置を受ける患者の看護の理解を深める。 事例から主体的に考え、周手術期の看護を学ぶ。</p>			
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第4章 主な症状に対する看護		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	3・4	Ⅰ貧血 Ⅱ出血傾向 Ⅲショック状態 Ⅳ咳嗽・喀痰		
3	5・6	Ⅴ呼吸困難 Ⅵ悪心・嘔吐 Ⅶ嚥下困難 Ⅷ排尿障害		
4	7・8	Ⅸ排便障害 Ⅹ黄疸 Ⅺ脱水 Ⅻ浮腫 Ⅼ発熱 Ⅽ痛み		
5	9・10 11	Ⅾ感覚障害 Ⅿ意識障害 ⅰ不安・抑うつ 筆記試験		
1	12・13	臨床看護概論 第5章 Ⅵ手術療法を受ける患者の看護		非常勤講師 (パワー ポイント)
2	14・15	特論：治療法概説 第2章 手術療法		
3	16・17	Ⅰ手術療法の目的		
4	18・19	Ⅱ術前検査と手術の決定		
5	20・21	Ⅲ麻酔の種類とその施行に伴う診療		
6	22・23 24	Ⅳ主な領域の手術療法 Ⅴ 筆記試験		
1	25・26	経過別看護 事例紹介		専任教員
2	27・28	事例展開 シミュレーション学習		
3	29・30	情報収集		
4	31・32	事例展開 事例検討 GW		
5	33・34	症状別事例展開		
6	35	発表, まとめ		
教科書	看護学入門7 基礎看護Ⅲ 臨床看護概論 (メヂカルフレンド社) DVD (二次救命処置 ALS)			
参考文献				
成績評価の方法	筆記試験 レポート			